

家畜衛生広報いいだ

長野県飯田家畜保健衛生所
飯伊家畜畜産物衛生指導協会
TEL：0265-53-0439、0440
FAX：0265-53-0441
E-mail:iidakachiku@pref.nagano.lg.jp
http://www.pref.nagano.lg.jp/iidakachiku/

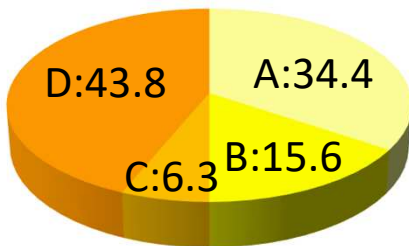
R5(2023).1.6 発行 2022_No.10

酪農生産性向上対策事業による 第2回 バルク乳検査の結果についてお知らせします

評価 A：正常/目標 B：やや多い C：多い D：非常に多い
グラフ内の数字は管内検査戸数（33戸）のうち、A～D評価の戸数の割合（%）

自分のバルク乳は
どのランクに
入っていますか？

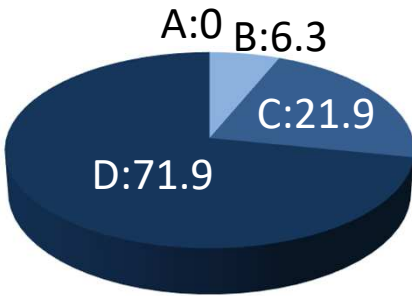
★黄色ブドウ球菌（SA）



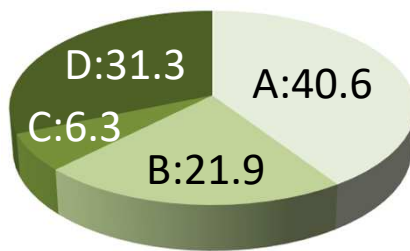
SA

SAが**6割以上**の農場で検出されました。
SAは**検出されないこと(評価A)**が重要です。
SA感染牛の特定など、対応については当所にご相談下さい。

★環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌



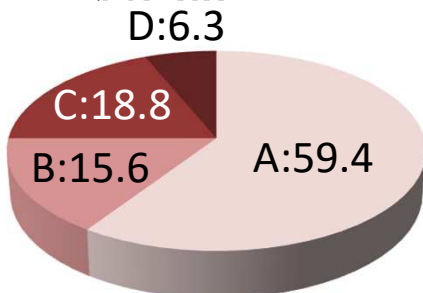
環境性ブドウ球菌



環境性レンサ球菌

これらの菌は、搾乳作業や飼養環境の衛生状態の指標となります。
バルク乳の体細胞数が多い場合にはこれらの菌による乳房炎牛の存在も疑われます。

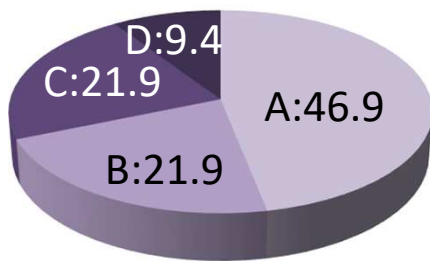
★大腸菌群



大腸菌群

大腸菌群が多数分離される場合、搾乳中に糞便などを誤って吸引していたり、搾乳機器の洗浄殺菌に問題があったりします。
菌数の多い農場は、搾乳手技や搾乳機器の衛生管理を確認しましょう。

★耐熱性菌



耐熱性菌

耐熱性菌は搾乳機器の洗浄・殺菌状態の良し悪しを反映します。
検出された農場は搾乳機器の洗浄手順を再確認しましょう。

★無乳性レンサ球菌、マイコプラズマ検査及び牛ウイルス性下痢ウイルス検査は、全戸陰性でした。

無料で実施できます!!



搾乳立会を受けてみませんか？

搾乳作業は乳房炎をコントロールする上で重要です。

搾乳は習慣的に身に染み込んだ作業が多く、搾乳立会は客観的に見直す一つの手段となります。

乳房炎に悩まされているのなら、搾乳方法に問題がないか、チェックしてみてはいかがでしょうか。

一般的な搾乳手順

- ①搾乳手袋をする
- ②プレディッピング
- ③前搾り
各乳頭4～5回
- ④乳頭清拭
一頭一布
- ⑤ミルカー装着
前搾り後、60～90秒で
- ⑥ミルカー離脱
装着時間約5分
- ⑦ポストディッピング

これら7つの作業を適切に行うことにより生乳の生産性を向上させ、乳房炎を予防することにつながります。

また、

- ・乳房炎の臨床症状がある
 - ・バルク乳検査で伝染性細菌（主にSA）が検出された
 - ・体細胞数が多い
- などがあつたら、牛1頭ごとの検査（個体乳検査）も実施できます。

搾乳手技や環境衛生などの問題点を明らかにし、乳房炎対策を効果的に行いましょう！



搾乳衛生・管理等のご相談はお気軽に！
連絡先 飯田家畜保健衛生所 保健衛生課
Tel 0265-53-0440 Fax 0265-53-0441